

# 平成30年度 学校自己評価 3学期

## 中津市立三郷小学校

1. 教育目標 自ら進んで、楽しく学び続け 様々な見方をして考えを深め、自分の言葉で発言(表現)し 共に学び磨き合う、最後まであきらめない いつも元気な三郷っ子
2. 重点目標 ①基礎基本の定着と活用力の育成  
②対話力をみがき、認め合う力の育成  
③進んで健康な体をつくる子の育成
3. 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準 A …達成率90～100% B …達成率70～ 89% C …達成率60～ 69% D …達成率60%未満
--

重点目標	達成指標	達成指標 評定	重点的取組	取組指標	項目 評定	評価	成果と課題、及び次学期(次年度)に向けての取組
基礎基本の定着と活用力の育成	○児童アンケートにより、「自分の考えを説明できた。」と答えた児童を80%以上にする。  ○単元テストでは、すべての観点で80点以上(ただし、C層の児童においては、70点以上)の児童割合を各学年80%以上にする。	A	学校	○自分の考えを持ち、伝え合う場のある授業に取り組む。  ○毎日1回は、話型(説明の基本形や友だちの発言に対して等)を活用して、ペア・グループ学習で自分の考えを伝え合う場を設ける。 ○単元を見通して、学習計画を話し合い提示する。(算数科) ○授業のはじめに、自分のノートで前時の振り返りをする。(算数科)	A	A	○市の学力状況調査の結果から見ても、問いに対して自分の考えを説明する力についてはついてきていると考える。継続して取り組んでいきたい。 ○単元計画を掲げることで授業に主体的に取り組んでいる様子が見られる。 ☆1年～6年まで、ノートの書き方、板書など職員間で意思統一したい。 ☆学年の発達段階による「話す」活動目標を作りたい。
			家庭	○家庭学習の習慣化を図る。  ○毎日、家庭学習の連絡帳へのサインと声かけを行う。 ○毎月1回「家庭学習チェックシート」に感想を書く。	A		○家庭学習チェックは保護者のサインが当たり前に入るようになってきた。 ☆家庭学習頑張り習慣でないときの保護者の子どもへの声かけ、取り組みが習慣化されるようになると良い。
			地域	○学習支援をするために、なかつつくすくプロジェクト(学習サポーター)に参加する。  ○なかつつくすくプロジェクトで、さまざまな学習活動に参加要請があった時は、積極的に参加する。 ○学校公開日等の行事へ積極的に参加し、学校の取り組みについて感想などを述べる。	A		○3学期の学校公開日に、たくさんの地域の方が関わり、各学年の授業が進められた。また、講演会にも参加された。
対話力をみがき、認め合う力の育成	○児童アンケートで「児童朝会や遊び集会などで感想を言えた」と回答した割合を70%以上にする。  ○自己評価アンケート(児童・保護者)で「あいさつ+1ができた」と回答した割合を80%以上にする。	A	学校	○お互いに認め合う集団づくりを行う。  ○対話力を磨くための「あいさつプラス1」に全校で取り組む。	A	A	○これまで全校で取り組んできた「いいとこ見つけ木」をランチルームに掲示し、閲覧。(全校で共有) ○児童会から、各学年の葉に書かれている内容をそれぞれ紹介。 ○2学期末のアンケート「自分によいところはあるか」という項目が87%。 ☆来年度は、直接「いいところ」を伝える取り組みをして全員が自信をもてるようにしたい。 ○児童会や生徒指導担当が「あいさつプラス1」の呼びかけ。「あいさつがんばりカード」の実施。学校であいさつプラス1◎と答えた児童95%。 ○3学期は、「自分から先に」元気のよいもプラス1に含めて取り組んだ。1年間を通して「プラス1」の意識は高まった。 ☆今後もあいさつのよさを子どもたちと共に考え、あいさつが子どもたちの中に根付くように、「プラス1」の取り組みを進化させたい。
			学校	○自分の思いや感想を自分の言葉で伝える子どもを育成する。  ○児童朝会や遊び集会、掃除の終わりで感想発表の場を設ける。(一日に一度は発表できる機会を)	B		○インフルエンザ予防のため、児童朝会、遊び集会は行えないことが多かったが、掃除の終わりの反省、G・M・Fや学級での活動の感想など、発表の機会を増やしてきた。 ○感想の発表ができた子ども75%(1月)。 ☆自主的に発表をする子どもに偏りが見られるため、挙手した児童だけ当てるのではなく、学年単位で当てるなどの工夫を続ける。 ☆臨機応変な対応力を育てるために。集会や掃除の終わり以外の機会を考える。
			家庭	○家庭内でのあいさつを励行する。  ○PTA保体校外指導部会を中心にしたあいさつ運動に学期に1回は参加する。 ○毎日、保護者から名前を呼んであいさつをする。 ○学期に2回「あいさつがんばりカード」に感想を書く。	A		○1、2、3学期で全家庭の保護者があいさつ運動に参加。 ○家庭であいさつプラス1◎と答えた児童94%、保護者96%。97%の保護者があいさつがんばりカードに感想を記入。 ○あいさつたよりを発行(2月)。 ○がんばりカードやあいさつたより等で、保護者にもあいさつプラス1の取り組みを広げ、あいさつを励行することができた。 ☆月に1回あいさつがんばりカードの取組継続。
			地域	○あいさつ・声かけ運動を推進する。  ○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもたちの様子について、学校に伝える。	A		○登下校時に見守りを実施。 ○見守り隊の方々アンケートを実施(2月)。 ☆あいさつ面・安全面等、児童の様子を引き続き学校に知らせてもらう。
進んで健康な体をつくる子の育成	○体力テストの「立ち幅跳び」において、全国平均をクリアした数を70%以上にする。  ○児童アンケートで就寝時刻を意識できる児童の割合を70%以上にする。 ・9:00(低) ・9:30(中) ・10:00(高)	A	学校	○体育学習や委員会活動を活用した運動の日常化をめざす。  ○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を全校で実施する。 ○授業の始まりに学年の学習内容や発達段階に応じたサーキットトレーニング・エクササイズを毎時間5分間実施する。 ○学期に1度、立ち幅跳びの計測を行う。 ○月に1度、縄跳び大会を行う。	A	A	○毎朝、「GM・F(グッドモーニング・フィットネス)」を、自分たちで運営できるようになった。(司会、計時等) ○体を温める意味での「サーキットトレーニング・エクササイズ」として有効であった。 ○立ち幅跳びの記録がさらに向上した。(全国平均を上回る子が2学期60%越え→3学期70%) ○毎朝の縄跳びと休み時間のジャンピングボード遊びの継続が、巧緻性と持久力につながり、立ち幅跳びにも好影響を与えた。
			家庭	○自分に適した生活リズムの習慣化を図る。  ○毎日、家庭で決めた就寝時刻を厳守させる。 ○毎月、「チェックシート」の保護者欄には、子どもを励ます取り組みの感想を書く。	A		○インフルエンザの罹患者が少なかった理由に、毎朝の運動と睡眠時間の確保が挙げられる。 ○毎月の「チェックシート」の集計を個別にグラフ化したり、コメント記入やシールを貼ったりすることが子どもへの励ましになり、睡眠時間を意識する継続につながった。 ○毎月の「チェックシート」では保護者の欄への記入が増えたが、毎回のことなので何を書けばよいかが難しいと思う。
			地域	○学校の体育的行事へ積極的に参加する。  ○プール納め、運動会、持久走大会に積極的に参加し、児童を応援する。			○今学期は体育的行事がなかった。 ○PTAの保体部と協力し、引き続き啓発を行う。